

# 長浜市防災新聞

平成二二年度

長浜市総合防災訓練開催!

南郷里地区

平成二二年度十月十八日(日)午前七時に湖北地域で柳ヶ瀬、関ヶ原断層帯を震源とする大地震が発生。市内では震度七を観測し、家屋の倒壊、火災の発生、ライフライン、施設、道路、橋梁の損壊が発生。多数の死傷者が生じると、甚大な被害が発生した、という想定で各自自主防災組織(二〇四自治会)により避難訓練、初期消火訓練が行われ、市では災害対策本部を設置すると共に防災関係機関に出勤要請を行い災害復旧訓練を開始しました。

メイン会場 南郷里小学校(グラウンド)では、各自治会の避難訓練に始まり、情報収集伝達訓練で実践さながらの訓練が展開されました。又、住民が参加する訓練として防災運動会を実施。バケツリレー、安全、安心搬送リレー、災害「だー」の大声競争をレクリエーション風を実施しました。

その外、防災関係機関(二団体)がライフラインの復旧活動、応急救護訓練、炊き出し訓練等を実施。晴

平成21年  
12月発行  
vol.3

天の中で行われ、多くの皆さんの協力のもと展開されて終了しました。



倒壊家屋内生き埋め者の救出



炊き出し訓練



被災建物救出



バケツリレー



応急救護活動訓練



土砂災害埋没車両生き埋め者の救出

防災推進員会議  
10月28日(水)  
講演会 実施

去る10月28日(水)夜七時から、リユートプラザ文化ホールにて、第二回防災推進員会議が実施されました。

今回は、神戸防災技術者の会から講師をお招きして、一四年前の阪神・淡路大震災の被害状況、住民行政の立場からの災害復旧活動の苦労話について、実体験をふまえて、ご講演いただきました。皆さん真剣に聞き入っておられました。

## 火災を防ぐ

放火を除けば、ほとんどの火災は、火気の取扱い不注意や不始末で起きた火災です。つまり火災は、普段の心がけ次第で十分防げるのです。あなたの防火意識は万全ですか。

- コンロ**
  - コンロのまわりに燃えやすいものを置かない。
  - コンロから離れるときは、必ず火を消す。
- ストーブ**
  - カーテンの近くにストーブを置かない。
  - ストーブで洗濯物を乾かさず。
  - 給油は完全に火が消えたことを確認してから。
  - 耐震自動消火装置付きのストーブを使う。
- 放火**
  - 家の周囲に燃えやすいものを置かない。
  - ゴミは収集日の朝、指定された場所に出す。
- 火遊び**
  - 子供の手が届く所にマッチやライターを置かない。
  - 子供には口頭から火の怖さや正しいマッチの使い方などを教える。
  - 花火をする時は必ず大人が付き添う。
- 配線**
  - たこ足配線をやめる。
  - 傷んだコードはすぐに修理、交換する。
  - 使用後は電気器具のプラグを抜いておく。
- たばこ**
  - 覆たばこをしない。
  - たばこを投げ捨てない。
  - 決められた場所以外でたばこを吸わない。
  - 火のついたたばこを残したまま、その場を離れない。
  - 灰皿は大きめのものを用意し、常に水を入れておく。

今年には姉川地震から一〇〇年、伊勢湾台風から五〇年という節目であることから、あのような災害がもし起きたらどのような対応をするのか、生の声を講演して頂き、各地域において、どう対応するのか?どうするべきか?を学びました。予期せぬ地震、災害の発生を防ぐことは不可能ですが、災害によって起こる火災の初期消火や、崩壊家屋からの救出等、地域住民の自分達のまちは、自分達で守ろう!という、自主防災組織の大切さを学んだと節々に訴えておられました。

### 神戸防災技術者の会の方による講演会



成率は未だ六〇%弱と低い数値です。一人ひとり家庭で災害に備えると共に地域での自主防災組織の結成または活性化に向けて、より一層取組を進めていただきたいと思えます。

- 初期消火の3原則を覚えていただけますか?**
  - その一 早く知らせる
    - 大きな声で「火事だ」と呼び、隣近所に知らせる。
    - 声が出ない場合は、非常ベルや音の出るものをたたいて知らせる。●どんな小さな火でも必ず「一九番通報」する。
  - その二 早く消す
    - 火が横に広がっているうちは消火可能。
  - その三 早く逃げる
    - 火が天井に届いてしまったら、迷わず避難する。●避難する時は、燃えている部屋のドアや窓ガラスを閉めて空気を遮断する。

長浜市 防災マニュアル

【概要版】

長浜市では、市民の皆様が、災害に対して安心して暮らせるまちづくりの実現のために、防災に関する基本方針を「市民とつくる災害に強いまち」なかはま、防災ビジョンを、「いのちを守る防災対策」と位置づけ、減災の考え方による効果的な防災対策「自助、共助、公助の役割で防災対策」と定め、地域、企業、行政が協働して総合的な防災対策を進めることを目標としています。

こうした中、市内各自治会では今日まで自主防災組織が結成され、訓練の実施や、防災資機材などの整備が行われてきました。

このマニュアルは、自主防災組織のリーダーとなられた方々のために、その役割や組織の基本的な活動内容等について参考としていただく為に分かりやすくまとめたものです。地域における今後の自主防災活動をより一層充実させるための参考として活用いただけますようお願いいたします。

この「概要版」は、一般各自治会の会長と防災推進員の方にお配りさせていただいております。また内容的に詳細な部分については、長浜市のホームページにも掲載されています。

掲載されている文章は、八月八日に開催されたシンポジウム「湖国の地震防災を考える」...百年前の姉川地震が語るもの」に講師の先生がご講演いただいた資料から抜粋したもので、姉川地震について記録された震災記です。当時の状況が記されたものも是非ご覧下さい。

平成22年  
消防協会長浜支部  
消防出初式

1月11日(月)  
午前9時~  
長浜文化芸術会館  
及び豊公園自由広場

消防団による年末  
特別警戒が市内全域で実施されます。

12月28日~30日  
20時~  
翌3時まで

「一〇年前この地に発生した地震について、いつまでも忘れることなく、後世まで語り継いで、今後の災害に備えていただきたいと思います。」

**編集後記** 一月から 市新長浜市が誕生します。広範囲となりますが、市内の防火、防災に取組んでいきたいと考えておりますので、皆さま方のご協力お願いいたします。

これから年末年始で慌ただしくなりますが、ご家庭での火の取扱いに充分注意していただき、素晴らしい新年となりますことをお祈りいたします。



以下に掲載している文章は、八月八日に開催されたシンポジウム「湖国の地震防災を考える」...百年前の姉川地震が語るもの」に講師の先生がご講演いただいた資料から抜粋したもので、姉川地震について記録された震災記です。当時の状況が記されたものも是非ご覧下さい。

震災記より  
頃(明治四二年八月一四日の午後三時三十分北西の方面より轟々たる音と共に、そら地震と云う間もなく、出るに出不らず、地は海山の如く波を打つてゆるり家は壊れ、其の状況を記するに筆紙に記すあたわず。

抑々大字大寺を震源地として本郡坂田伊香郡等に亘り県下未曾有の大事変にして皆々途方に暮れて目を立てては破壊せる我が家を眺めるのみ。また、家の下になって助けを求めもの、悲声を上げて泣き叫ぶもの、恰も戦場の如く、嗚呼僅か一分間の内に殆ど延長一里余多数の家屋遂に地に下り、数千の同胞は産を失い、飢餓に泣くもの、路頭に迷うもの、悲惨の状、見るに忍びず。

然し、地震止むや不覚、当村にては鎮守の境内にて煮出して、一週間は飲食を下付せられたり。陸軍省よりは露天にあるをいたわり天幕を借与せられ、皆々嬉し涙を流して「週間余露野にて夜を明かせり。」写真師および活動写真等集合し来り実況を写取して、中には外国人さへ来て各新聞特派員等腕車走り、自転車で走り、是の片田舎なる虎姫の里も一時は大日本帝国の首都都たる東京にも似たり